

新しい公共支援事業の成果等報告
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

1. 成果等報告

モデル事業名	Bーぐるでつながる新しいコミュニティ創出事業			
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 <input type="checkbox"/> 震災支援枠 (該当するものにチェック)			
事業実施主体名	文京区コミュニティバスBーぐる沿線協議会			
実施期間	平成 23 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで			
支援額 (注釈参照)	8,711 千円 (平成 23 年度 1,960 千円、平成 24 年度 6,751 千円)			
		平成 23 年度	平成 24 年度	合計
	人件費	338,940	839,280	1,178,220
	旅費	63,000	75,600	138,600
	消耗品費	303,608	109,220	412,828
	印刷製本費	279,594	180,600	460,194
	使用料	34,650	92,000	126,650
	通信運搬費	0	70,300	70,300
	委託費	640,500	3,179,000	3,819,500
	備品費	299,708	2,205,000	2,504,708
	合計	1,960,000	6,751,000	8,711,000
	<p><設備備品購入>50 万円以上の機械器具は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車載用液晶モニター及び DVD 再生装置各 4 台 (取得金額 2,205,000 円、管理者：文京区コミュニティバスBーぐる沿線協議会 会長元田良孝 耐用年数 5 年) 			
マルチステークホルダー (会議体) の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文京区地区町会連合会、文京区商店街連合会及び文京区観光協会は、地域情報発信事業において、沿線地域情報 (イベント、商店街・店舗、観光資源) を提供し、取材等が円滑に進むよう調整する等、映像コンテンツの制作等に主体的に協力した。 ・ 文京区高齢者クラブ連合会は、生涯学習司の会を通じて、移動展覧会において作品応募を働きかけた。 ・ 東京商工会議所文京支部は、映像コンテンツと紙媒体の連携等、本事業を効果的に実施するための助言を行った。 ・ (株)東京ドーム・(学)日本医科大学は、施設利用者に対し、協議会で制作したチラシの配布やグッズの提供等により、沿線協議会活動のPRを行った。 ・ 日立自動車交通(株)は、イベント時の応援参加やバス車内の掲示スペースの提供、イメージキャラクターの利用に協力した。 ・ 文京区 (区民課) は、協議会の会計、事務執行を支援した。協議会の事業が円滑に執行できるよう、庁内関連部署や東京都との調整役となった。 			
事業概要	<p>Bーぐる車内での沿線地域の情報発信や沿線の多様な主体とのタイアップイベント等により、Bーぐるが沿線地域のコミュニティの活性化と新しいコミュニティを創出する「縁結び役」となるとともに、Bーぐるが生み出す人の流れを沿線地域に波及させ、沿線地域の活性化を目的とした事業を実施した。</p>			

<p>事業内容</p>	<p>(1) 地域情報発信事業 (平成 23・24 年度)</p> <p>Bーぐる (千駄木・駒込ルート) の車内に液晶モニターを設置し、沿線の地域情報を紹介する番組「Bーぐるチャンネル」を制作・放映した。平成 24 年度は、跡見学園女子大学マネジメント学部芝原脩次ゼミと連携し、学生ボランティアが企画・取材・編集した作品の監修を㈱バックアップサービスに委託し、実施した。</p> <p>(2) イベント事業</p> <p>①「+ワン！」サービス利用促進キャンペーン (平成 23 年度)</p> <p>各協力店のセールスポイントや特典を紹介した小冊子「+ワン！」ショップ&サービスガイド及びキャラクター「びい」のついたステッカー等を制作し、協力店に配布した。</p> <p>②区民まつり (Bーぐる cafe)</p> <p>文京ボランティア・市民活動まつりに、Bーぐるのイメージキャラクター「びい」を前面に出した「Bーぐる cafe」(無料休憩所)を出店し、来場者に対してパネル掲示やパンフレット配布等により、本協議会の活動をPRした。</p> <p>③移動展覧会 (平成 24 年度)</p> <p>区民の「心に残るまちの風景」をコミカルな作品にしてBーぐる車内で上映する事業を、文の京生涯学習司の会が東京大学大学院情報学環水越研究室の協力のもと企画し、作品募集の番組の企画を南部デザイン、制作を㈱バックアップサービスに委託し、実施した。</p> <p>④Bーぐる市 (平成 24 年度)</p> <p>文京ボランティア・市民活動まつりとの同時開催で、真砂市場内商店と「+ワン」！サービス協力店のコラボによる「Bーぐる市」を開催し、本協議会も「Bーぐる cafe」を出店した。「Bーぐる市」の企画イベントとして、真砂市場内商店と「Bーぐる cafe」を対象としたお買物スタンプラリーを実施した。</p> <p>(3) ボランティアとサポート会員の募集 (平成 24 年度)</p> <p>本協議会のホームページを開設し、本協議会の活動内容を紹介するとともに、協議会事業へのボランティアスタッフ募集を行った。また、Bーぐる市のスタッフを募集するチラシを作成し、Bーぐる車内で配布した。</p> <p>(4) 調査事業 (平成 24 年度)</p> <p>本事業を実施したことによりBーぐる利用者の沿線地域に対する関心の変化や各事業の評価等を調査し、今後の協議会活動に向けた基礎資料とした。調査はさんぽみち総合研究所㈱に委託し、実施した。</p>
<p>得られた成果及び自己評価</p>	<p>コミュニティバスが「地域密着型」の公共交通機関であることに着目し、沿線地域の情報をタイムリーに提供すれば、途中下車等の新しい需要を生み出すことが出来、Bーぐるが生み出す人の流れを沿線地域に波及させ、活性化につなげることを目標として事業を実施した。</p> <p>この点については、今回のモデル事業では十分な成果を出すには至らなかったが、映像コンテンツに対するアンケート等の結果をみても、方向性の正しさを確認することができた。</p> <p>一つの活動が周囲の共感を得て、多くの人を巻き込みながら地域のムーブメントとなっていくプロセスには、自分たちの「思い」をいかに伝えていくかが重要ということがわかった。私たちにとっては、Bーぐるが「縁結び役」となって『Bーぐるでまちとひとをつなぐ』というメッセージであり、今回の新しい公共支援モデ</p>

	<p>ル事業を通じて、改めて自分たちが活動していく上での目的を明確にすることが出来た。</p> <p>今回の事業とした液晶モニターによる沿線地域の情報発信や沿線商店を巻き込んだイベントは一つのモデルであり、今後はこれを足がかりに事業の選択肢を増やしつつ、自分たちの活動を応援してくれるファンを増やしていきたい。</p>
<p>評価ラ ンク</p>	<p><input type="checkbox"/>S：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>A：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/>D：成果が得られなかった (該当する評価にレを付けてください。)</p>

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が50万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

2. 添付書類

事業の実施内容及び実績に関する報告書